

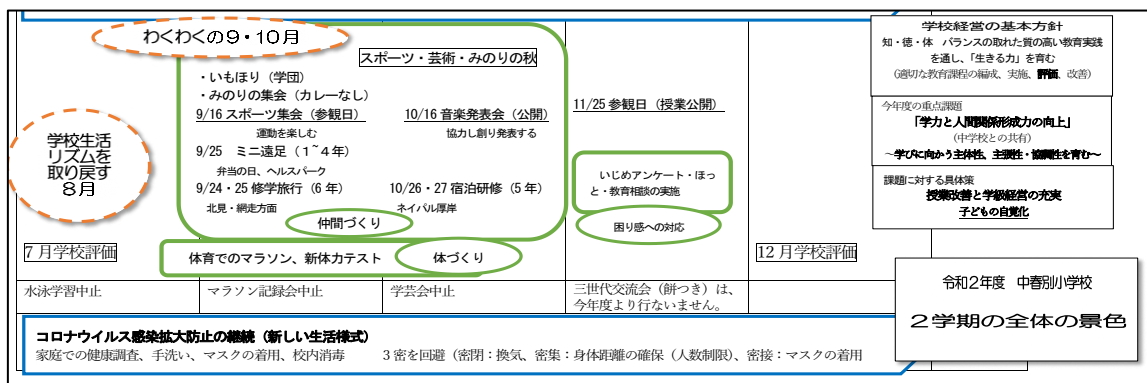
別海町立中春別小学校

指定年度：H30～
児童数：98名

1 包括的な学校改善に向けた取組の概要

①教育理念や経営方針の浸透

- 学校がチームとして機能するためには、経営の重点や目的を明確に示し、浸透させることが大切であることから、教職員、子ども、保護者及び地域住民に、短い言葉を用いたり、図式化したりするなどして、分かりやすく伝えることに努めた。



【2学期の経営の重点を明確に示した「2学期の全体の景色」(一部抜粋)】

②温かい人間関係を基盤とした職員室づくり

- 子どもを指導する教員がチームとして機能するには、困ったことを気軽に相談し助け合える環境が大切であることから、OJTを意識して、若手・ミドルリーダー・ベテラン教員が互いに対話し学び合う機会や協働で問題解決を図るための場づくりを行った。
- 先輩教員の師範授業「若手塾」や、研修部が企画した「一日シャドーイング」、教員の専門性を生かした「交換授業」による授業力向上の機会を設定するとともに、ケース会議の開催など、学級担任を支援する組織体制を整備した。



【相談する教員】

③管理職による授業観察を通じた日常会話や面談の工夫

- 教職員とのコミュニケーションの活性化を図るため、日常から管理職が授業観察を行うとともに、指導の在り方について対話し、授業者の気付きを促しながら、相談や助言を行った。
- 「授業観察カード」を作成し、子どものよさや成長、指導上の課題等を授業者に伝え、教職員との関わりを記録に残すようにした。

2 取組の成果と課題 (□：成果 ■：課題)

- 学校評価の「学校の教育方針を分かりやすく伝える」の項目で、教職員・保護者ともに肯定的な回答の割合が90%以上を上回った。
- 学校評価の「日々落ち着いて学習に取り組む(学習規律)」の項目で、4点中、教職員平均が3.2点、児童平均が3.4点であり、肯定的な回答が多く見られた。
- 標準学力調査の第2～6学年の平均正答率が昨年度より向上し、全国平均以上となるとともに、「学習をがんばった」と回答する児童の割合が95%となった。
- 教職員が相談し合い、授業や生徒指導対応を行うなど、チームで対応する姿がよく見られるようになったものの、学校評価の「学校経営への参画意識・協働意識」の項目で、教職員の肯定的な回答の割合が72%であったことから、協働的な取組をさらに充実する必要がある。